

文化財科学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 学期	曜日	講時	頁	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
文化財科学特論Ⅰ	東北大学収蔵の考古学資料	2	藤澤 敦	1学期	火	3	1	文化財科学特論
文化財科学特論Ⅱ	日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究	2	藤澤 敦	2学期	火	3	2	博物館資料論特論
文化財科学研究演習Ⅰ	文化財科学研究史(1)	2	古川 一明、天野 順陽	集中(1学期)			3	文化財科学研究演習Ⅰ
文化財科学研究演習Ⅱ	文化財科学の方法と理論(1)	2	古川 一明、天野 順陽	集中(2学期)			4	文化財科学研究演習Ⅱ
文化財科学研究実習Ⅰ	古代遺跡調査の方法と実践	2	古川 一明、天野 順陽	集中(1学期)			5	文化財科学研究実習Ⅰ

科目名：文化財科学特論 I / Science of Cultural Properties(Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：藤澤 敦 (教授)

講義コード：LM12301, **科目ナンバリング：**LJS-CUM601J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 文化財科学特論 】

1. 授業題目：

東北大学収蔵の考古学資料

2. Course Title (授業題目)：

Archaeology collection of Tohoku University and history of the research

3. 授業の目的と概要：

東北大学には研究の基礎となり成果となった、膨大な資料標本や研究機器類がある。その中には、文学研究科の考古学資料が約 20 万件あり、これらの資料はおよそ 90 年間以上にわたる調査と研究によって収集されてきたものである。

本講義では、これらの資料について解説し、これら資料に基づいて構築された学説の意義について紹介するとともに、その研究史的意義と今日的意義について検討する。本年度は、東北大学において進められてきた弥生時代および古墳時代研究の特質について検討する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 東北大学が収蔵する考古学資料について理解する。
- (2) 東北大学の考古学資料の学術的意義を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1. 講義の概要と進め方の説明および導入
- 2. 東北大学での考古学研究の歴史
- 3. 東北大学収蔵の考古学資料の概要 (1)
- 4. 東北大学収蔵の考古学資料の概要 (2)
- 5. 考古学陳列館の見学と収蔵資料の解説 (1)
- 6. 考古学陳列館の見学と収蔵資料の解説 (2)
- 7. 東北大学における弥生文化研究 (1)
- 8. 東北大学における弥生文化研究 (2)
- 9. 東北大学における弥生文化研究 (3)
- 10. 東北大学における弥生文化研究 (4)
- 11. 東北大学における古墳文化研究 (1)
- 12. 東北大学における古墳文化研究 (2)
- 13. 東北大学における古墳文化研究 (3)
- 14. 東北大学における古墳文化研究 (4)
- 15. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート (60%)・出席 (40%)

7. 教科書および参考書：

教室にて資料を配布する。参考文献については講義中に適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

前回の授業内容を踏まえて次の授業が進行するので、前回の授業内容の確認を行うこと。

9. その他：なし

科目名：文化財科学特論Ⅱ／ Science of Cultural Properties(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

学期：2学期， **単位数：**2

担当教員：藤澤 敦（教授）

講義コード：LM22301， **科目ナンバリング：**LJS-CUM602J， **使用言語：**日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 博物館資料論特論 】

1. 授業題目：

日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究

2. Course Title (授業題目)：

Japanese Cultural Properties Protection Law system and the characteristic of the archaeological study

3. 授業の目的と概要：

日本では、発掘調査の圧倒的多数が、開発に伴う調査であることが特徴である。このような調査は、文化財保護法に基づく埋蔵文化財保護行政の一環として、行政機関によって実施されている。このことは日本における考古学研究に大きな影響を与えている。

本講義では、文化財保護法や関連する諸規定と、それに基づく埋蔵文化財保護行政の実際について解説する。あわせて、文化財保護行政の今後の展望についても検討し、その中での考古学研究のあり方について考察する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本の埋蔵文化財保護行政の枠組みと実務について理解する。
- (2) 日本の文化財保護行政と考古学研究の関係について理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1. 授業概要と進め方の解説および導入
- 2. 日本の考古学をめぐる状況
- 3. 文化財保護法の基本理念と構成
- 4. 教育委員会制度
- 5. 文化財保護法に基づく埋蔵文化財保護行政 (1) 埋蔵文化財関係条文
- 6. 文化財保護法に基づく埋蔵文化財保護行政 (2) 保護調整手続き
- 7. 文化財保護法に基づく埋蔵文化財保護行政 (3) 記録保存のための発掘調査
- 8. 国指定史跡制度
- 9. 国史跡の保存管理と整備活用
- 10. 史跡の実地見学
- 11. これからの文化財保護行政 (1)
- 12. これからの文化財保護行政 (2)
- 13. 日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究 (1)
- 14. 日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究 (2)
- 15. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート (60%)・出席 (40%)

7. 教科書および参考書：

教室にて資料を配布する。参考文献については講義中に適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

前回の授業内容を踏まえて次の授業が進行するので、前回の授業内容の確認を行うこと。

9. その他：なし

科目名：文化財科学研究演習Ⅰ／ Science of Cultural Properties(Advanced Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期集中 その他 連講

学期：集中(1学期)， **単位数：**2

担当教員：古川 一明、天野 順陽（教授）

講義コード：LM98801， **科目ナンバリング：**LJS-CUM603J， **使用言語：**日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 文化財科学研究演習Ⅰ】

1. 授業題目：

文化財科学研究史 (1)

2. Course Title (授業題目)：

Advanced Seminar of Cultural Property Protection Studies

3. 授業の目的と概要：

この講義では、明治時代以来の文化財科学研究の歴史に伴って培われた文化財保護の始まりと、文化財保護法の施行による発展について理解する。日本では、1960年代の高度経済成長に伴う大規模開発によって埋蔵文化財行政が成熟し、文化財保護と活用の各分野が発展した。本講義では、受講者は文化財保護研究に対する独自の考えをもち、講義で発表を行う。また、相互の討論を通して、より深く研究の現状を認識する。

4. 学習の到達目標：

(1) 文化財保護と活用の研究史を把握する。(2) 科学的手法を取り入れた文化財の保護と活用について理解し、各自の研究テーマの課題を理解できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

毎回、生徒が自分のテーマに沿った資料を用いて発表をおこない、最後にディスカッションをおこなう。講義の内容とスケジュールは以下の通りである。

1. 講義ガイダンス
2. 発表と議論
3. 発表と議論
4. 発表と議論
5. 発表と議論
6. 発表と議論
7. 発表と議論
8. 発表と議論
9. 発表と議論
10. 発表と議論
11. 発表と議論
12. 発表と議論
13. 発表と議論
14. 発表と議論
15. 発表と議論

6. 成績評価方法：

- (○) リポート [30%]・(○) 出席 [30%]
(○) その他 (具体的には、発表と討論) [40%]

7. 教科書および参考書：

教室にて指示、プリントを配布。

8. 授業時間外学習：

発表内容は、時間外に各自がまとめる。

9. その他：なし

研究演習Ⅰ、Ⅱを通年で連続履修することが望ましい。

科目名：文化財科学研究演習Ⅱ／ Science of Cultural Properties(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期集中 その他 連講

学期：集中(2学期)， **単位数：**2

担当教員：古川 一明、天野 順陽（教授）

講義コード：LM98802， **科目ナンバリング：**LJS-CUM604J， **使用言語：**日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 文化財科学研究演習Ⅱ 】

1. 授業題目：

文化財科学の方法と理論（1）

2. Course Title (授業題目)：

Advanced Seminar on method and theory of Cultural Property Protection Studies

3. 授業の目的と概要：

（1）文化財保護と方法と理論を把握する。（2）科学的手法を取り入れた文化財保護と活用の方法と理論を理解し、各自の研究テーマの課題を理解できるようになる。毎週の講義では、各学生が準備したレポートに基づいて発表をおこない、相互の討論を通じて理解を深める。

4. 学習の到達目標：

（1）文化財保護と活用の研究史を把握する。（2）科学的手法を取り入れた文化財の保護と活用について理解し、各自の研究テーマの課題を理解できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

毎回、生徒が自分のテーマに沿った資料を用いて発表をおこない、最後にディスカッションをおこなう。講義の内容とスケジュールは以下の通りである。

第1回：ガイダンスと発表の説明

第2回：学生による研究発表とディスカッション①

第3回：学生による研究発表とディスカッション②

第4回：学生による研究発表とディスカッション③

第5回：学生による研究発表とディスカッション④

第6回：学生による研究発表とディスカッション⑤

第7回：学生による研究発表とディスカッション⑥

第8回：学生による研究発表とディスカッション⑦

第9回：学生による研究発表とディスカッション⑧

第10回：学生による研究発表とディスカッション⑨

第11回：学生による研究発表とディスカッション⑩

第12回：学生による研究発表とディスカッション⑪

第13回：学生による研究発表とディスカッション⑫

第14回：学生による研究発表とディスカッション⑬

第15回：学生による研究発表とディスカッション⑭

6. 成績評価方法：

（○）レポート〔30％〕・（○）出席〔30％〕

（○）その他（具体的には、発表と討論）〔40％〕

7. 教科書および参考書：

教室にて指示、プリントを配布。

8. 授業時間外学習：

発表内容は、時間外に各自がまとめる。

9. その他：なし

研究演習Ⅰ、Ⅱを通年で連続履修することが望ましい。

科目名：文化財科学研究実習Ⅰ／ Science of Cultural Properties(Advanced Field Work)Ⅰ

曜日・講時：前期集中 その他 連講

学期：集中(1学期)、 単位数：2

担当教員：古川 一明、天野 順陽（教授）

講義コード：LM98812、 科目ナンバリング：LJS-CUM607J、 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 文化財科学研究実習Ⅰ】

1. 授業題目：

古代遺跡調査の方法と実践

2. Course Title (授業題目)：

Method and Practice of Excavation at Ancient Sites

3. 授業の目的と概要：

史跡多賀城跡あるいは関連遺跡の発掘調査に参加し、実際の発掘調査をおこなうための基礎的知識と、調査方法を学ぶ。また、遺跡から出土した遺物の整理や保存処理、科学的分析法を学び、文化財科学の方法と実践の基礎を学ぶ。

4. 学習の到達目標：

(1) 史跡多賀城跡と関連遺跡の基礎的知識を身につける。(2) 発掘調査の方法を学び、実践する。(3) 出土遺物の整理法を身に付ける。(4) 出土遺物の保存処理や化学分析を実践するための基礎的な知識と技術を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

生徒は史跡多賀城跡または多賀城跡調査研究所にて、発掘と資料の整理・分析に参加する。講義の内容とスケジュールは以下の通りである。

第1回：史跡多賀城跡あるいは関連遺跡の発掘調査に関するガイダンス

第2回：史跡多賀城跡あるいは関連遺跡の発掘調査①

第3回：史跡多賀城跡あるいは関連遺跡の発掘調査②

第4回：史跡多賀城跡あるいは関連遺跡の発掘調査③

第5回：史跡多賀城跡あるいは関連遺跡の発掘調査④

第6回：史跡多賀城跡あるいは関連遺跡の発掘調査⑤

第7回：史跡多賀城跡あるいは関連遺跡の発掘調査⑥

第8回：史跡多賀城跡あるいは関連遺跡の発掘調査⑦

第9回：史跡多賀城跡あるいは関連遺跡の発掘調査⑧

第10回：史跡多賀城跡あるいは関連遺跡の発掘調査⑨

第11回：史跡多賀城跡あるいは関連遺跡の発掘調査⑩

第12回：出土遺物の基礎的な整理

第13回：保存処理の方法と実践

第14回：科学的分析の方法と実践

第15回：文化財科学の方法と実践

6. 成績評価方法：

(○) リポート [30%]・(○) 出席 [40%]

(○) その他（具体的には、講義態度と発掘への取り組み）[30%]

7. 教科書および参考書：

教室にて指示、プリントを配布。

8. 授業時間外学習：

発掘に関わる準備と、多賀城跡に関する研究史の学習。

9. その他：なし

履修にあたっては、協力講座の考古学専攻分野に連絡すること。